

# 第 1 章

## エッセンス

原始・古代・中世①  
(政治外交史中心)

# 第1講 学習法+縄文・弥生・ヤマト政権

## ☆エッセンス1：日本史学習の鉄則

精神 .....

教科書 .....

方法 .....

## ☆エッセンス2：時代区分

地質学 .....

考古学 .....

歴史学 .....

BC5 ~ 4

AD3

❖ Note ❖

.....  
.....



A series of horizontal dotted lines spanning the width of the page, providing a guide for writing notes.

## ☆エッセンス 3 : 環境の変化と縄文社会

約1万年余り前



①海面上昇

②温暖化

成立した縄文社会の特徴

①道具

②社会

## ☆エッセンス 4 : 弥生時代の成立

弥生時代の成立事情



①西日本

②弥生人



Note



.....

.....

.....

.....



A series of horizontal dotted lines spanning the width of the page, intended for handwritten notes.

## ☆エッセンス 5：弥生社会の特徴

有力首長による抗争・動乱期

➔ ①首長の登場 .....

②動乱の証明 .....

## ☆エッセンス 6：弥生農耕の開始と展開

前期 .....

➔ ①道具 .....

②耕作 .....

③脱穀・貯蔵 .....

中後期 .....

➔ ①技術 .....

②鉄器 .....



A series of horizontal dotted lines spanning the width of the page, intended for handwritten notes.

## ☆エッセンス7：小国の分立

『漢書』地理志

BC1 .....

『後漢書』東夷伝

AD57 .....

AD107 .....

2C 後半 .....

## ☆エッセンス8：邪馬台国

『魏志』倭人伝

2C 後半 .....

AD239 .....

❖ Note ❖

.....

.....

.....

.....

.....





A series of horizontal dotted lines spanning the width of the page, intended for handwritten notes.

## ☆エッセンス9：4世紀の東アジア

4世紀＝「空白の世紀」

朝鮮半島情勢

日本

## ☆エッセンス10：ヤマト政権の推移

	政権の特徴	古墳の特徴
4世紀		
5世紀		
6世紀		

❖ Note ❖



A series of horizontal dotted lines spanning the width of the page, intended for handwritten notes.

# 第 2 章

## 解 説

### 原始・古代・中世① (政治外交史中心)

# 第1講 学習法＋縄文・弥生・ヤマト政権

## 1 変化する受験日本史

### (1) 最近の入試問題(日本史)のもつ顕著な特徴

日本史の入試問題のもつ傾向は、次のように整理できます。

#### ① センター試験

ほとんどすべての問題が文章選択問題(正誤判定)で構成されています。

#### ② 国公立大学2次試験

いうまでもなく、論述問題(60字～400字程度)が中心です。

#### ③ 上位難関私大

論述問題の出題が増加・定着してきました。

具体的には、20世紀末に私大論述の出題数はおよそ3倍に増え、2000年度に早大・商学部、2002年度には早大・政経で論述問題が出題されるようになりました。全体として早大・慶大・明大・法大に代表される上位難関私大は、論述勝負の傾向を強めています。

#### ④ 最新版教科書の記述が入試に直結

教科書に新たに採用されたり従来よりも強調されたりした項目(最近解明が進んできた研究テーマなど)からの出題が増大しています。

代表的な具体例は、古代の都、琉球・アイヌ関係、惣無事・かぶき者、人種差別撤廃案など。早大などはいうまでもなく、東大・京大・一橋大でも最新版の教科書に記載されたニューフェイスを出題する傾向が顕著になっています。



.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

## (2) 日本史学習の基本原則

時々、カケラのような知識を覚えこんだだけの、単なる解答マシンと化した受験生をみかけます。そんなにつまらない人間になってしまっただけで、一体どうするというのでしょうか。すでにだれもが肌で感じとっていることですが、現代社会の構造は、ガラガラと音をたてながら根底から変わろうとしています。変化の激しい時代、安易な近道を求める者には哀しい未来しか用意されないだろうと思います。

これからの時代を生きていくためには、どうしても本物の力が必要です。その一環としての日本史学習はどうあるべきか、この観点から、まず次の4点を強調しておきます。

### ① 学力の飛躍は何が支えているか

人間は危機を自覚したときにジャンプする動物。学力の飛躍は、脳を活性化させることができるかどうかにかかっています。

### ② なぜ教科書を重視すべきなのか

高校で渡される教科書は決して完璧なものではありませんが、一方で、センター試験を含めて入試問題はすべて、教科書を参考にしてつくられています。

したがって、これを軽視したまま、賢明な戦いをくりひろげることができません。また、大学で身につける「知」の性格を考えれば、歴史という科目のもつ重要性や教科書を習得することの必要性がいつそう明確になるはずです。

### ③ プラネタリウム型記憶の弊害

プラネタリウム型の学習は、受験日本史のマスターを困難にするだけでなく、近年の入試問題の傾向にも合致していません。何よりもそれは、あなたの幼児性を象徴するだけになってしまいます。

### ④ 何よりも「わかる」ことを最優先する

丸暗記優先では、あやふやな知識しか残りません。これははっきりいって試験の邪魔。しかもそんなやり方だけでは、そもそも全時代・全範囲をカバーすることさえ困難でしょう。

どの分野にとりくむときでも、「わかる」ことを重視してほしいと願っています。この姿勢を忘れなければ、歴史のイメージを描くことや多くの知識を有機的に結びつけることが容易になり、それは必ず、あなたの実力を最後まで支え続けてくれます。

## 解答

**プラネタリウム型記憶の弊害** プラネタリウム型の学習は、受験日本史のマスターを困難にするだけでなく、近年の入試問題の傾向にも合致していません。何よりもそれは、あなたの幼児性を象徴するだけになってしまいます。

受講生から質問がありました。

上記の一文について、少し補足します。

「プラネタリウム型学習」とは、テキストの前ページにある「時々、カケラのような知識を覚えこんだだけの、単なる解答マシンと化した受験生をみかけます」の部分を、言い換えた表現です。

以前は、「夜空の星くずのような記憶」とっていたのですが、日本史はとにかく暗記物、用語集に出てくる用語はブツブツいわずに(いやブツブツ呪文のように唱えてでも)覚えるんだ、といったタイプの受験生に限って、必ずアタマのなかにスイッチが用意されていて、オフにすると真っ暗になってしまうということに気がついたので、それ以来、「夜空」をやめて「プラネタリウム型」と形容しています。

文章の後半部については、あれこれいわなくてもよいはずです。

別の表現を用いると、たとえば「語呂合わせのお勉強」は、いつか途方に暮れるために受験を決意したわけではないはずなのに、アタマをよくする行為の対極にあり、歴史のもつ有機的連関を遮断する効果しかなく、そして何よりも本質的にもものすごくつまらないものだ、といった程度の意味になるでしょうか。

いずれにしても、文章選択問題や論述問題は、どの科目で課されるにしても、受験時点での頭脳の開発度が露骨に試される形式です。難関とされる大学が知りたい力はこの1点だけだ、といっても過言ではありません。

以前、東大の総長だった<sup>はすみしげひこ</sup>運實重彦という人が、日本武道館で開催された東大の入学式で、「皆さん方のうちの1000人ぐらい(注：合格者は約3000人)は今日が人生の頂点です、本当におめでとう」という主旨の挨拶をしたことがあります。

こうした皮肉(あるいは嘲笑)を、断固としてはねつけられるような受験生になってください。

僕も、大学受験に関わる者として、たとえ入学式の日「人生の頂点」を迎えても合格させてしまえばいいというような下品な誘惑に負けないよう、つまり端的にいうと、教師として最悪の知的退廃に陥ることのないよう、努力を重ねたいと考えています。

## 2 合格のための方法論

### (1) 基本の徹底

常に基本を重視すべき基礎力養成期には、迷うことなく、以下の3点に力を集中してください。

#### ① 日本史の学習スタイルを確立する

受験という勝負は短期決戦。試行錯誤をくりかえしている時間的余裕はありません。まずは、自分なりの学習スタイルの構築に全力を傾けましょう。

#### ② 授業の徹底的な復習を遂行する

当然のことであるはずなのに、高校の地歴科目の授業で予習・復習を積んできた受験生は、実はほとんど存在しません。日本史は蓄積がものをいう科目。今年こそは、たとえ真夏に吹雪の日があっても、当たり前のことを当たり前のように実践してほしいと思います。

#### ③ 日本史の全体像を把握する

これは、それぞれおかれた状況に応じて、少し工夫を加えてもよいところ。

一般的には、(a)教科書の通読と熟読、(b)手を動かす作業の継続、を通して、受験日本史総体のイメージを自分のものにする努力を重ねてほしいと思います。そうすれば、比較的早い段階からターゲットをしぼった準備が可能になるでしょう。



Note





## (2) 必携すべき書籍

---

教科書・用語集・資料集・史料集の4点は、日本史受験の際の必携書といってよいものです。以下、もっとも代表的な書籍を掲載しておきます。

### ① 教科書

新課程版の『詳説日本史B』(山川出版社)。例年、4月末に書店での購入が可能になる。

\*この講座の受験生には、『詳説日本史ガイドブック 上・下』(山川出版社)も有用だろうと思います。

### ② 用語集

『日本史B用語集』(山川出版社)。

### ③ 資料集

『詳説日本史図録』(山川出版社)。年表・地図・写真・統計などをまとめたもの。学校で配布されている場合はそれでよい。

### ④ 史料集

『詳説 日本史史料集』(山川出版社)。学校で配布されている場合はそれでよい。



Note

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

### 3 更新世と日本

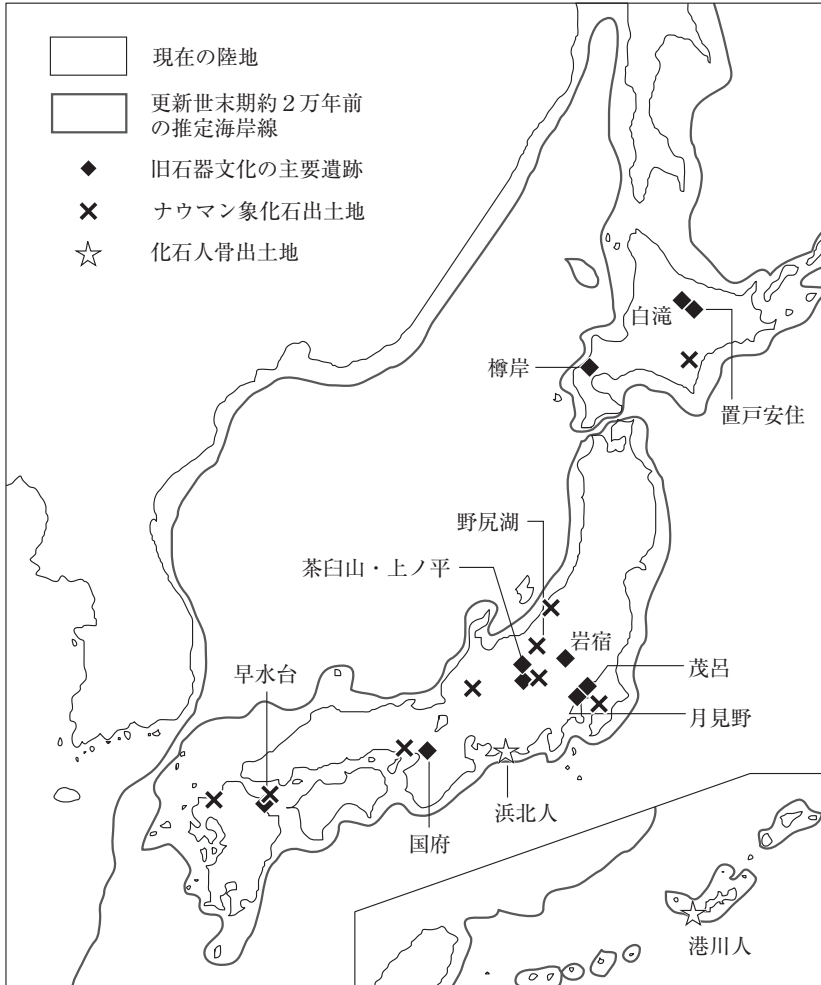
#### (1) 更新世

更新世とは、約258万年前から約1万2000年前までの期間をさす地質学上の言葉で、この時代には、寒冷な氷期と比較的温暖な間氷期がくりかえされた(氷河時代)。

#### (2) 日本の地形

更新世は氷河時代とも呼ばれ、寒冷な氷期には海面が著しく下降した。このため日本列島は北と南でアジア大陸と陸続きになり、北からはマンモス・ヘラジカ、南からはナウマンゾウ・オオツノジカ(長野県野尻湖での発掘が知られる)などの大型獣が渡来した。

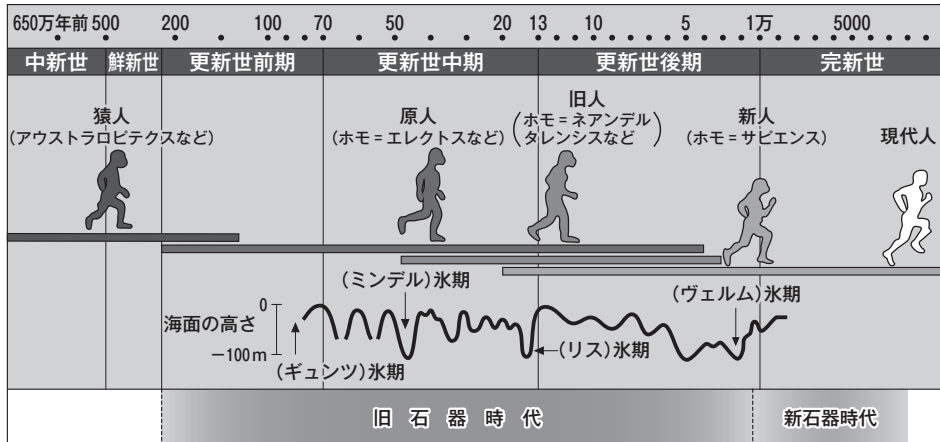
#### 資料1 更新世末期の日本列島



### (3) 人類の進化

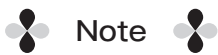
更新世の時代に人類は、猿人→原人→旧人→新人へと進化し、日本列島における人類の生活もはじまったと推定されている。

#### 資料2 地質時代と人類



### (4) 日本の更新世人骨

現在までに日本列島で発見された更新世の化石人骨は、いずれも新人段階のもの(静岡県浜北人・沖縄県港川人・山下町洞人など)。日本人の原型はアジア大陸南部に居住していた人々の子孫(縄文人)だと考えられ、その後、弥生時代以降に渡来した北アジア系の人々との混血がくりかえされて現在の日本人が形成された。



Note

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

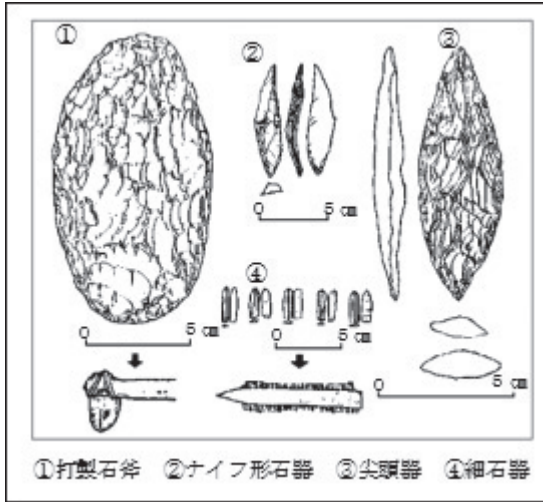
.....



(3) 石器の展開

打製石器は、まずハンドアックス(握槌・握斧)が用いられ、やがて多様化してナイフ形石器や尖頭器(槍先に使用)が一般化。旧石器時代末期には細石器(木や骨の軸の側縁に装着する組合せ式石器)が登場した。

資料3 旧石器時代の石器



Note

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

## 5 縄文時代の成立

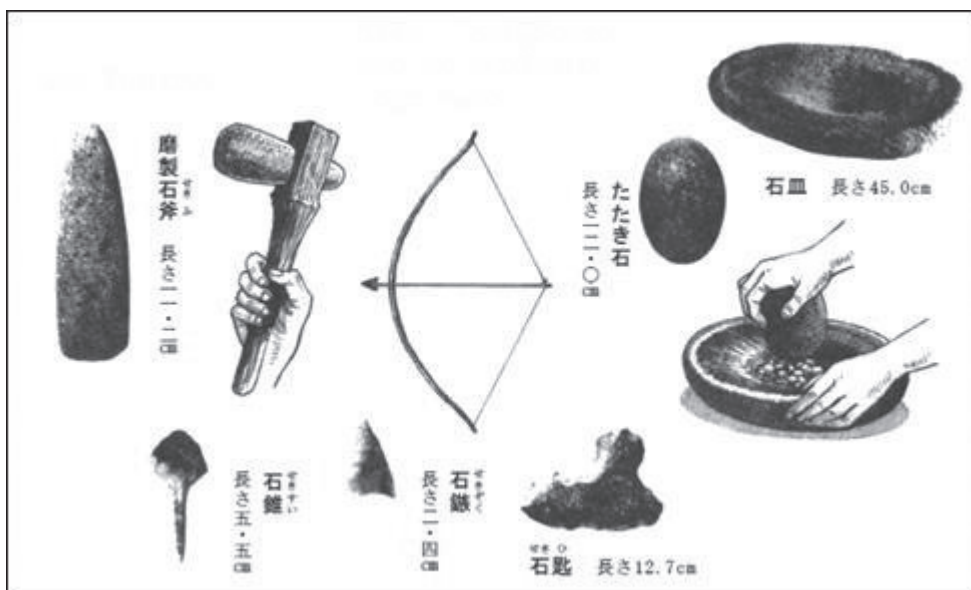
## (1) 成立

約1万2000年前, 更新世から完新世へと地球環境が大きく変化した。温暖化により, 海面が上昇して日本列島が形成され, 落葉広葉樹林帯(東日本)・照葉樹林帯(西日本)の拡大や中小動物の増加, といった事態が進行した。こうした変化を背景に成立し, 1万年近くにわたって継続した文化を縄文文化と呼んでいる。

## (2) 大きな特徴

- ① **縄文土器** 土器(低温で焼成された厚手の縄文土器)が出現した。この縄文土器の変化から縄文文化の時代は, 草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6期に区分される。このうち草創期の土器は, 現在のところ世界でもっとも古い土器になっている。
- ② **弓矢** 中小動物の捕獲に適した弓矢が使用された。弓矢の先端に用いられた石器を石鏃せきぞくという。
- ③ **新石器** 磨製石斧や樹木や動物の皮などを剥ぐ道具として用いられた石匙せきひなど, 磨製石器が普及した。

## 資料4 縄文時代の石器



## 6 縄文人の生活と社会

### (1) 食料獲得経済

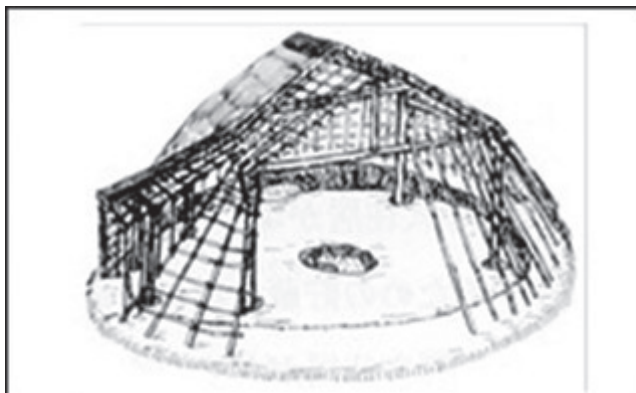
縄文人たちの生活は、基本的に狩猟・漁労・採取を中心とするものだった。そのための用具類を確認しておく。

- ① 狩猟 シカ・イノシシを捕獲するため、弓矢・落とし穴を盛んに利用した。
- ② 漁労 動物の骨・角・<sup>つの</sup>牙を釣針などに加工(骨角器)し、丸木舟を用いて海上を移動した。
- ③ 採取 木の実をすりつぶすため、<sup>いしざら</sup>石皿・すり石を活用した。

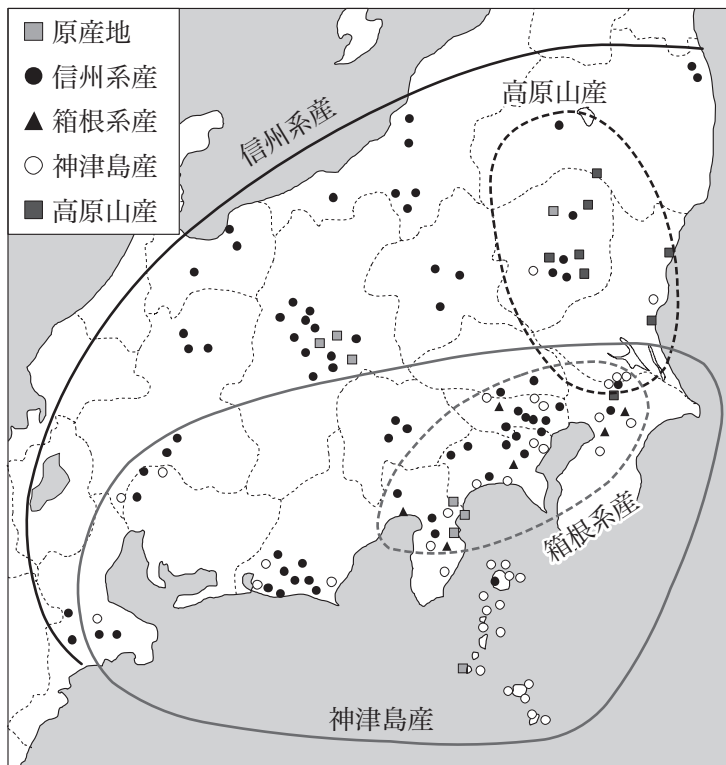
### (2) 定住化の進行と縄文社会

- ① 住居 定住化が進行し、<sup>たてあな</sup>竪穴(たてあな)住居・広場などを備えた集落が生まれ、貝塚が形成された。
- ② 交易 黒曜石(長野県和田峠などで産出)やひすい(硬玉, <sup>こうぎょく</sup>新潟県姫川流域で産出)などが広範囲に分布していることから、かなり遠方の集団との交易も展開されていたと考えられている。
- ③ 習俗 代表例は、(a)女性をかたどった土偶、(b)男性を象徴的に表現した石棒、(c)成人式など通過儀礼の際におこなわれた抜歯、(d)死者の手足を折り曲げて葬る屈葬、になる。
- ④ 社会 貧富の差や身分の別がみられず(住居や墓地がほぼ均質)、また社会全体がアニミズム(自然の物や現象に靈魂が存在すると考え、それを畏怖・崇拜する信仰形態)に強く規制されていた。
- ⑤ 東と西 縄文文化は東日本で高度に発展した(三内丸山遺跡・亀ヶ岡遺跡、いずれも青森県)。一方で、<sup>なばたけ</sup>菜畑遺跡(佐賀県)・<sup>いたづけ</sup>板付遺跡(福岡県)で縄文時代晩期の水田が発見されるなど、縄文時代の終わり(紀元前5~4世紀頃)には西日本の一部で水稲耕作が開始された(→p. ■)。

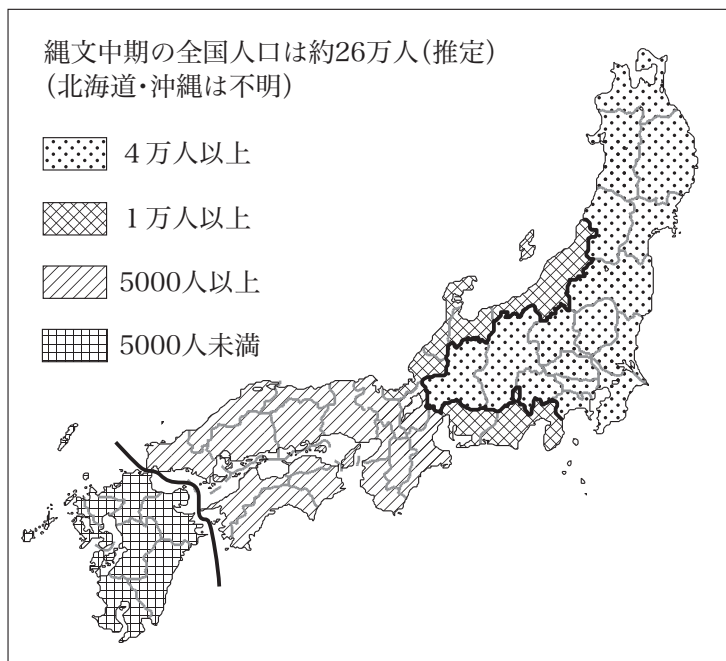
#### 資料5 竪穴住居の復元図



資料6 黒曜石の分布



資料7 縄文時代中期の人口



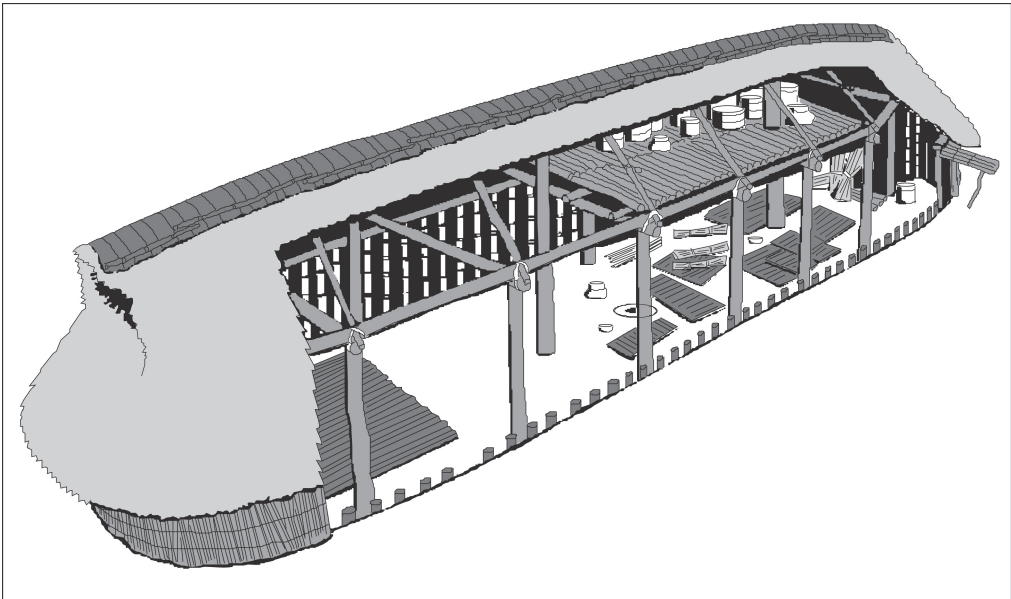


### (3) 三内丸山遺跡

青森県の三内丸山遺跡は、縄文時代前期から中期にかけての長期にわたる大規模な集落跡。多くの竪穴住居跡、大型の建物跡などが発見され、最大級の板状土偶や新潟県姫川流域で産出されたひすいなど出土品も多い。また、クリなどの植物を栽培していたことも明らかになっている。

なお、江戸時代に東北各地をまわったことで知られる菅江真澄すがえ ますみの紀行文(『菅江真澄遊覧記』)には、この地で縄目の文様がほどこされた土器や人の頭をかたどったもの、仮面のようなものを目にしたことが記されている。

資料8 三内丸山遺跡(復元図)



#### ❖ Note ❖

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

## 7 弥生文化の成立

## (1) 文化の特徴

およそ2500年前と想定される縄文時代の終わり頃、水田稲作農耕が九州北部で始まったと考えられている。紀元前4世紀ごろには、水稲耕作の展開と金属器（青銅器・鉄器）の使用を特徴とする弥生文化が西日本地域で成立し、それはやがて東日本へと広がっていった。

弥生時代は、石器（まもなく消滅）と青銅器・鉄器が同時に用いられた時代である。大陸文明の多くが青銅器時代を経て鉄器時代へと移行していったのと異なり、日本の場合、同時期に青銅器と鉄器の使用がはじまったため、青銅器は、実用具ではなく祭器としての道（銅鐸<sup>どうたく</sup>、銅剣、銅矛<sup>どうほこ</sup>・銅戈<sup>どうか</sup>）を歩み、鉄器が実用的な工具・農具として普及していった。

また、縄文文化が日本列島全域に達したのに対して、弥生文化は北海道や南西諸島にはおよばなかった。北海道では“続縄文文化”，南西諸島では“貝塚文化”と呼ばれる食料採取文化が継続する。



## Note



## (2) 成立の背景

弥生文化が成立した背景には、次のような事情があったと考えられている。

- ① **食料獲得経済の限界** 西日本を中心とした地域では、食料獲得経済の限界から、**食料生産経済への動きが本格化**していた。**菜畑遺跡**(佐賀県)・**板付遺跡**(福岡県)などで、縄文時代晩期の水田が発見されている。
- ② **文明の伝播** 大陸での戦乱(この時期の中国は戦国時代)の影響などにより、朝鮮半島などから高度な技術を携えた人々が集団で渡来してきた(渡来人)。

### 資料9 弥生時代の遺跡



.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

### (3) 弥生時代の開始年代について

九州北部の弥生時代早期から弥生時代前期にかけての土器に付着していた炭化物などの年代は、紀元前約900～800年ごろに集中するという調査結果が2003年に公表された。これは、国立歴史民俗博物館がAMS法(加速器質量分析法)と呼ばれる炭素14年代法を用いて計測したもので、考古学的に同時期と考えられている遺跡の水田跡に打ちこまれていた木杭2点の年代も、ほぼ同じ年代を示した。こうしたことから、調査した土器を使用していた時代は紀元前9～8世紀ごろ、すなわち日本列島の住人が本格的に水田稲作を始めた年代は、紀元前10世紀までさかのぼる可能性も含めて検討するべきだという見解が唱えられている。

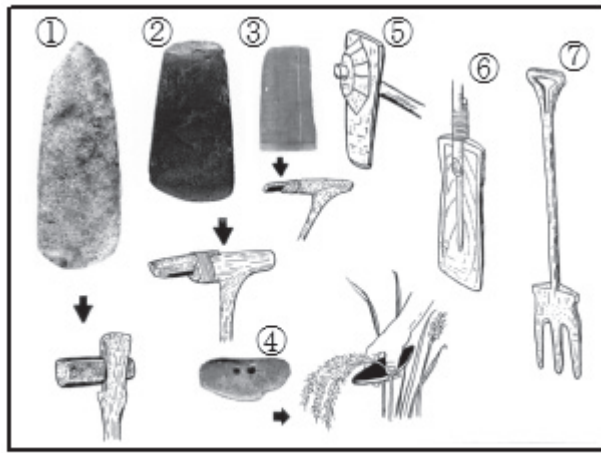
- ❶ **炭素14** 自然界の炭素原子のうち、炭素14( $^{14}\text{C}$ )は5730年の半減期をもつ放射性同位体(ラジオアイソトープ、同位体とは同じ元素でも中性子数の相違により質量が異なる原子のこと)で、大気や現在生育している生物には炭素14が1兆個当たり1個ほどの割合で含まれている。
- ❷ **炭素14年代** 大気中の炭素14濃度が変化しないと仮定して算出した年代を、伝統的に「炭素14年代」と呼ぶ。具体的には、炭素14の半減期を5568年(実際には5730年)とし、そこから炭素14の濃度にもとづいて算出した年数を、西暦1950年を起点にさかのぼって示す方法が用いられている。「放射性炭素年代」「14C年代」「炭素年代」という用語も用いられる。
- ❸ **AMS法** 加速器によってイオンを加速し、炭素14を直接1個1個検出して正確にその同位体濃度を測定する方法。

#### ❖ Note ❖

## (1) 農具

- ① 初期農耕 磨製石器で製作した木製農具(木鎌・木鋤<sup>すき</sup>・田下駄など)が使用された。
- ② 技術の高度化 弥生時代中後期には、鉄製農具や鉄製の刃先をもつ農具が普及した。

## 資料10 弥生時代の農具



①大型輪刃石斧（伐採用），②柱状片刃石斧，③扁平片刃石斧（ともに木工用），④石包丁，⑤鋏，⑥⑦鋤

## (2) 収穫

- ① 初期農耕 石包丁による穂首刈りが一般的だった。
- ② 技術の高度化 弥生時代中後期には、鉄鎌を用いた根刈りも登場した。

## (3) 脱穀・貯蔵

脱穀には木臼・堅杵が用いられ、高床倉庫などに貯蔵された。

## (4) 水田

- ① 初期農耕 生産性の低い湿田が中心だった。
- ② 技術の高度化 弥生時代中後期には、灌漑施設が必要だが生産性の高い乾田の開発も進められた。

## 9 弥生人の生活と青銅製祭器

### (1) 住居

定住生活が定着し、竪穴住居が一般化した。外敵の侵入を防ぐため、住居群を濠<sup>ほり</sup>で囲んだ環<sup>かん</sup>濠<sup>ごう</sup>集落が拡大し、瀬戸内海沿岸には軍事機能をもつと考えられる高地性集落も出現した。

#### 資料11 環濠集落



弥生中期の集落跡。周囲に深さ1.5～2m、幅4mほどのヒョウタン形の環濠がみられる。  
(横浜市ふるさと歴史財団蔵)

### (2) 土器

縄文土器から、高温で焼成された薄手・硬質の弥生土器へと変化した。甕<sup>かめ</sup>（煮炊き用）・壺<sup>かじ</sup>（貯蔵用）・高杯<sup>たかすき</sup>（盛付け用）など種類も豊富になっている。



### (3) 埋葬

最大の特徴は伸展葬が増加したこと。大型の墳丘墓や多数の副葬品をもつ墓が出現し、九州北部では甕棺墓や支石墓がみられ、各地に方形周溝墓も拡大した。

#### 資料12 甕棺墓



(福岡市埋蔵文化財センター蔵)

#### ❖ Note ❖

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

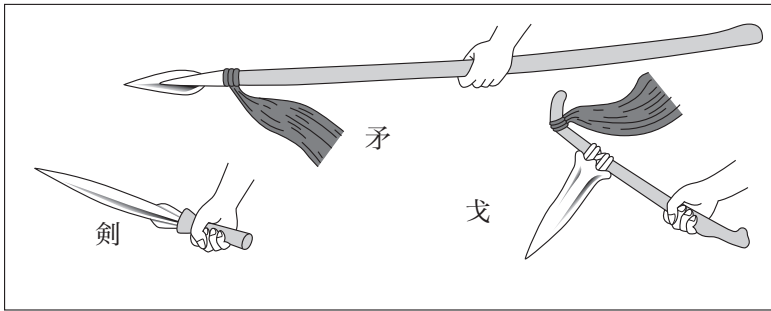
.....

#### (4) 青銅製祭器

青銅製祭器(銅矛・銅戈, 銅劍, 銅鐸)は, 弥生時代における地域的な勢力圏の変遷を示すものとして知られている。朝鮮半島から伝えられて次第に大型化した銅矛・銅戈は, 九州北部を中心とする地域に分布し, 朝鮮半島の鈴(朝鮮式小銅鐸)に起源をもつ銅鐸は, 近畿地方中心に, 広く西日本一帯から発見されている。

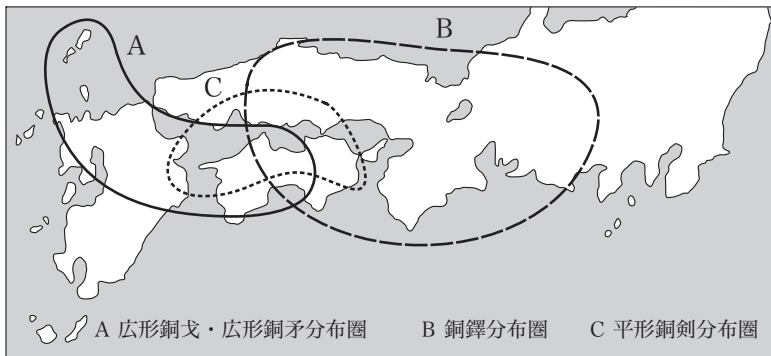
島根県の荒神谷遺跡<sup>こうじんだに</sup>では, 山の斜面に穴を掘って358本の銅劍が埋められており, さらに別の穴には6個の銅鐸と16本の銅矛が埋められていた。また同県の加茂岩倉遺跡では39個の銅鐸が発見されている。

#### 資料13 青銅製祭器の使用例



銅矛は槍に似た武器。銅戈は短剣型の身を柄に対して直角にとりつけた武器。

#### 資料14 青銅製祭器の分布



#### Note

.....

.....

.....

.....

.....



### (1) 小国の形成

---

「イネと鉄」によって成立した弥生時代は、農業そのものが人々の集団化をうながしたのに加えて、用水の確保や余剰生産物の獲得をめぐる争いが激化し、ほどなく戦争の時代へと突入した。

この時代、戦争の過程で小国が形成され、そのなかからより大きな政治的統合が生まれようとしていたことは、中国の歴史書にも記録が残されている。

### (2) 『漢書』地理志と日本

---

紀元前1世紀 倭、100余国に分立。前漢が朝鮮半島においた楽浪郡に遣使。

- ❶ 『漢書』 前漢の歴史を記した正史。中国では前王朝の事績を記した正史をあとに続く王朝がまとめる責務があるとされ、『漢書』は後漢の班固(32~92)が大部分を編纂した。
- ❷ 楽浪郡 前漢が朝鮮半島北西部に設置した。現在のピョンヤン(平壤)付近を中心とする地域をさす。
- ❸ 必読史料 「夫れ楽浪海中に倭人有り。分れて百余国と為る。歳時を以て来り献見すと云ふ。」

### (3) 『後漢書』東夷伝と日本

---

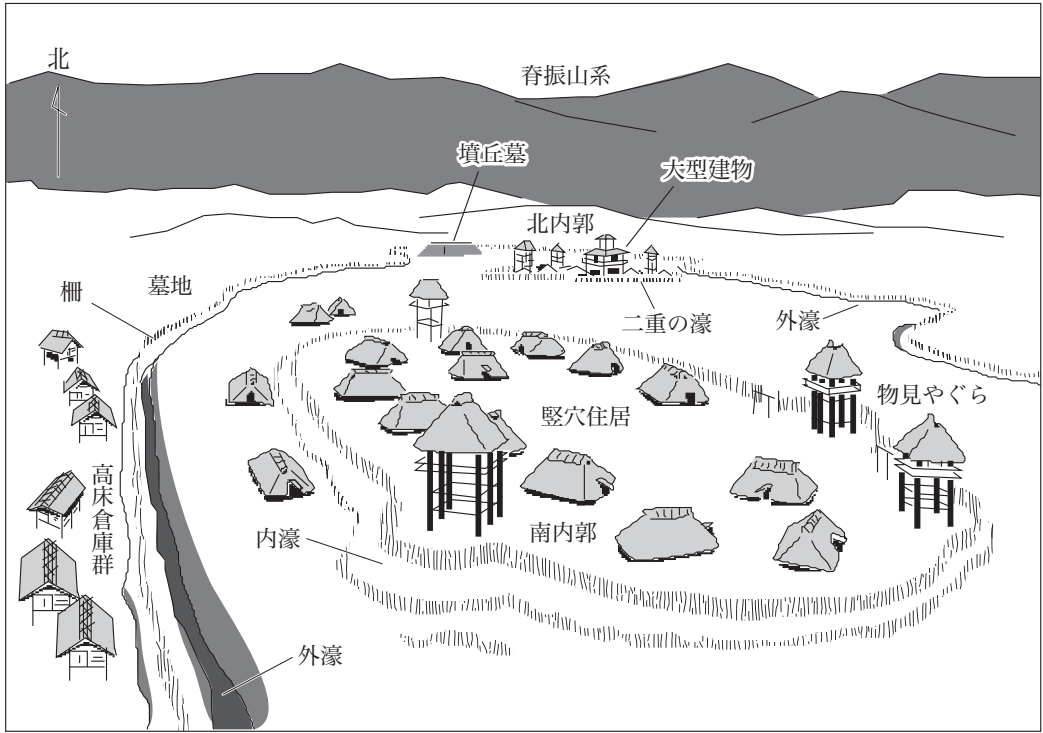
1世紀 57 倭の奴国王、後漢の光武帝より印綬を授かる。

2世紀 107 倭国王帥<sup>すいしやう</sup>升ら、生口(奴隸のこと)を献上。

2世紀後半 倭国大乱。

- ❶ 『後漢書』 後漢の歴史を記した正史。5世紀に范曄<sup>はんよう</sup>が編纂。
- ❷ 印綬 1784年、現在の福岡市志賀島<sup>しかのしま</sup>から出土した金印(「漢委奴国王」印)のことだと考えられている。
- ❸ 倭国大乱 佐賀県吉野ヶ里遺跡も巨大な環濠集落として知られる。
- ❹ 必読史料 「建武中元二年、倭の奴国、貢を奉じて朝賀す。使人自ら大夫と称す。倭国の極南界なり。光武、賜ふに印綬を以てす。安帝の永初元年、倭の国王帥升等、生口百六十人を献じ、請見を願ふ。桓靈の間、倭国大いに乱れ、更相攻伐して歴年主なし。」

資料15 吉野ヶ里遺跡(弥生時代後期推定図)



Note

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

#### (4) 「魏志」倭人伝と日本

3世紀 239 邪馬台国の女王卑弥呼，魏に遣使。

⇒「親魏倭王」の称号と金印・銅鏡などを授かる。

3世紀 卑弥呼の死後，男の王が擁立されたが内乱状態になり，卑弥呼の宗女(同族の女性)壹与(台与)が王となってようやく混乱が収束した。

① 「魏志」 中国の三国時代(220~280)を記録した正史『三国志』のなかの「魏書」東夷伝・倭人条の通称。3世紀に陳寿が編纂にあたった。

② 必読史料 「倭人は帯方の東南大海の中に在り，山島に依りて国邑を為す。旧百余国，漢の時朝見する者あり。今使訳通ずる所三十国。郡より倭に至るには，海岸に循ひて水行し，……邪馬壹国に至る。女王の都する所なり。……男子は大小と無く，皆黥面文身す。……租賦を取むに邸閣有り。国々に市有り。有無を交易し，大倭をして之を監せしむ。女王国より以北には，特に一大率を置き，諸国を檢察せしむ。諸国之を畏憚す。……下戸，大人と道路に相逢へば，逡巡して草に入り，辞を伝へ事を説くには，或は蹲り或は跪き，両手は地に抛り之が恭敬を為す。……其の国，本亦男子を以て王と為す。住まること七，八十年，倭国乱れ，相攻伐して年を歴たり。乃ち共に一女子を立てて王と為す。名を卑弥呼と曰ふ。鬼道を事とし，能く衆を惑はす。年已に長大なるも，夫壻無し。男弟有り，佐けて国を治む。……景初二年六月，倭の女王，大夫難升米等を遣し郡に詣り，天子に詣りて朝献せんことを求む。その十二月，詔書して倭の女王に報じて曰く『……今汝を以て親魏倭王と為し，金印紫綬を仮し，装封して帯方の太守に付し仮綬せしむ。……』と。……卑弥呼以て死す。大いに冢を作る。径百余歩，徇葬する者，奴婢百余人。更に男王を立てしも，國中服せず，更々相誅殺し，当時千余人を殺す。復また卑弥呼の宗女壹与の年十三なるを立てて王と為す。國中遂に定まる。」

#### 資料16 3世紀の東アジア



## (5) 邪馬台国

- ❶ 成立 邪馬台国を中心とする小国連合(約30国)として成立した。
- ❷ 統治 「鬼道」による支配がおこなわれる一方で、法や制度が整いはじめ、社会には身分差(大人・下戸)があった。

- ❸ 論争 江戸時代から所在地をめぐる議論が展開されてきた邪馬台国については、現在もなお、その論争に決着がついていない。

中国の史書に記された邪馬台国が畿内にあったとすると、それはヤマト政権に直接つながり、3世紀の段階で、邪馬台国＝ヤマト政権が九州から中部地方あたりまでを版図としていたことになる。一方、九州説をとると、邪馬台国は九州北部を管轄していたに過ぎず、3世紀の段階では、畿内のヤマト政権による広範な政治的統一はまだ認められない、ということになる。



.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

## (6) 冊封体制

冊封体制とは、華夷思想にもとづき、中国皇帝が朝貢してきた周辺諸国の王に称号などを授与すること(冊封)によって形成される国際秩序をいう。

華夷思想を根拠とする国家的理念・論理は、次のようにまとめることができる。

天帝の命により天下の支配を委任された有徳の君主＝皇帝は、徳をもって天下を支配し、その徳を世界に広めなければならない。皇帝が直接支配する天下の中心＝中国(中華・華夏)の周辺には、いまだ徳のおよばない異民族がいる。それらは方位によって、東夷・西戎・北狄・南蛮(諸蕃・夷狄などと総称する)と呼ばれて下位の存在とみなされ、皇帝は、そうした夷狄に徳をおよぼすことで、天下の拡大を果たしていく――。

これによって、中国と周辺諸国とのあいだには、**宗主国と藩属国という一種の君臣関係**が生じることになった。

藩属国の使節は中国皇帝に対して君臣の礼を尽くし、一方、**皇帝は多くの返礼物を与えて大國の威徳を示した**。諸国の王は、みずからの権力の正統性を中国に権威づけてもらうことができるため、**王権の強化・安定を図る**ことをおもな目的として冊封に応じた。

3世紀、邪馬台国の女王卑弥呼が魏王朝から「親魏倭王」に封ぜられて金印をうけたのは、冊封体制にくみこまれたことを示す典型例。朝鮮半島では百済・新羅が冊封の対象とされ、唐代には新羅・渤海が主要な藩属国となった。しかし6世紀以降、倭(日本)はこの冊封体制から離脱していた。

8世紀、律令国家を形成した日本は、中国の華夷思想を模倣して周辺の諸国や諸地域を序列化し、唐の冊封をうけずに20年に一度程度の遣唐使を派遣した(事実上の朝貢)。

この点について、もう少し詳しく解説すると、律令国家として誕生した日本は、「隣国」(対等を標榜する形式→唐)、「蕃国」「夷狄」(下位の存在→新羅・渤海・蝦夷など)、といったかたちで周辺の諸国・諸地域の序列化を図ろうとしていった。これは中国の華夷思想を模倣したもので、この日本型華夷思想にもとづいて、古代日本は、**律令法に裏打ちされた“東夷の小帝国＝小中華帝国”としての体裁を整えることになった**と考えられている。

10世紀初め唐が滅亡すると、それ以後、中国を中心とする冊封体制は一時崩壊したが、14世紀後半に明王朝が成立すると、冊封体制が再び強化された。足利義満が明の皇帝から「日本国王」に冊封され、日本も明を中心とする国際秩序のなかに位置づけられた。この関係は、室町幕府の衰微とともに消滅する。



Note

---

---

---

---

---


## 11 ヤマト政権

## (1) 成立

3世紀後半になると、西日本各地に巨大な古墳(前方後円墳が中心)が出現する。各地の首長たちは**共通の墓制**で結ばれつつあった。

出現期におけるもっとも大規模な前方後円墳は、大和(奈良県)に造営されている**箸墓古墳**<sup>はしはか</sup>になる。この時期に、近畿地方を中心とする広域の政治連合=ヤマト政権が形成されたと考えられる。

- ① **中国** 南北分裂時代(五胡十六国時代・南北朝時代)を迎え、混乱した。このため、4世紀を含む前後約150年の間、中国の歴史書には倭(ヤマト政権)に関する記述がない。また、周辺諸民族に対する中国の支配力が弱まり、東アジアの諸地域は次々に国家形成へと進んだ。
- ② **朝鮮半島** 中国東北部からおこった高句麗が朝鮮半島北部に領土を広げ、313年には楽浪郡を滅ぼした。一方、朝鮮半島南部では馬韓・弁韓・辰韓というそれぞれ小国の連合が形成されていたが、4世紀には馬韓から百済が、辰韓から新羅が生まれた。高句麗の好太王(広開土王)碑文には、「4世紀の終わり(391年以降)に倭と高句麗が交戦した」という記録が残されている。高句麗は南下政策をとり、倭(ヤマト政権)は半島南部の鉄資源を欲したため、両者は、新羅・百済をはさんで軍事的に衝突することになったのだと考えられている。

 Note 

## (2) 倭の五王

5世紀にはいと、中国の歴史書に倭(ヤマト政権)の記事がみられるようになる。『宋書』倭国伝は、この約1世紀の間に5人の倭王(倭の五王)が中国南朝に朝貢したと伝えている。倭の五王は、中国皇帝の政治的権威により、**国内における支配権を確立する**と同時に、朝鮮半島南部における**外交・軍事上の優位を確保する**ために中国南朝に朝貢した。

倭王武の時代には、その支配が九州から関東に及んで統治権者としての大王の地位が確立し、朝貢の目的の一端が達成された。しかし、百済への軍事権など半島南部における優越的地位はついに認められず、使節の派遣は打ち切られることになる。

『宋書』倭国伝は倭の五王のことを讚・珍・済・興・武と記しており、倭王武の上表文(478)で知られる「武」は5人目の倭王になる。倭王武=獲加多支鹵大王=雄略天皇だと考えられているが、次の関係に注意しておきたい。

- ① **倭王武** 『宋書』の記述。「自ら使持節都督倭・百済・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸軍事安東大將軍倭国王」と称したが、宋からは「使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事安東大將軍倭王」の地位しか認められなかった。
- ② **獲加多支鹵大王** 江田船山古墳出土鉄刀銘(熊本県)や稲荷山古墳出土鉄剣銘(埼玉県)に、漢字の音を利用して表記された大王。
- ③ **雄略天皇** のちにまとめられた「記紀」(『古事記』『日本書紀』のこと)に登場する天皇。

### Note

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

### (3) 氏姓制度

倭王たちの活発な動きからもわかるように、5世紀後半になると、ヤマト政権の支配は九州から東国(関東地方)にまで確実におよぶようになり、氏姓制度と呼ばれる支配体制が作りあげられていった。

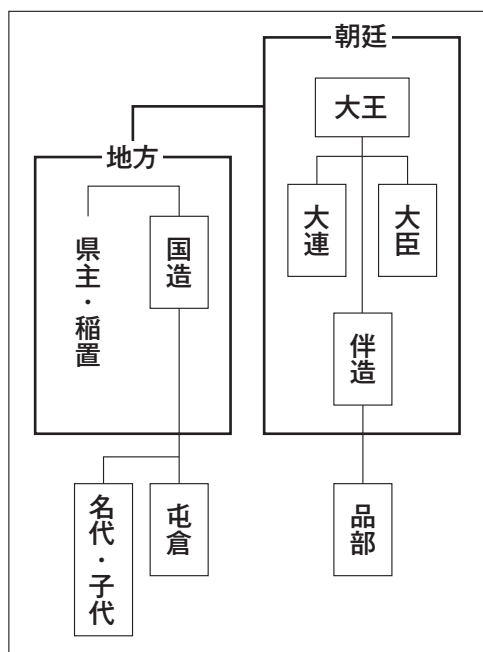
「<sup>うじ</sup>氏」とはヤマト政権を構成する豪族のことをいい、ヤマト政権が大王を中心とする諸豪族の連合体だったことをよく示している。一方、「<sup>かばネ</sup>姓」は氏に与えられた称号で、臣・連・君などの例があった。

### (4) 支配機構

「<sup>かばネ</sup>姓」という位置づけを与えられた諸豪族は、それぞれ職務を分担してヤマト政権を支えた。

- ① **大王** ヤマト政権の首長。7世紀後半ごろに天皇号が用いられはじめたと考えられている。
- ② **大臣・大連** 臣・連の最高実力者が任じられ、国政を担当。
- ③ **伴造** **品部**(しなべ からかぬちべ すえつくりべ 韓鍛冶部・陶作部など専門的技術で朝廷に奉仕する集団)などを統率して朝廷(大王を中心とする政府)内の職務を分担。
- ④ **国造・県主** (くにのやつに あがためし) ヤマト政権下の地方官。

資料17 ヤマト政権の支配構造



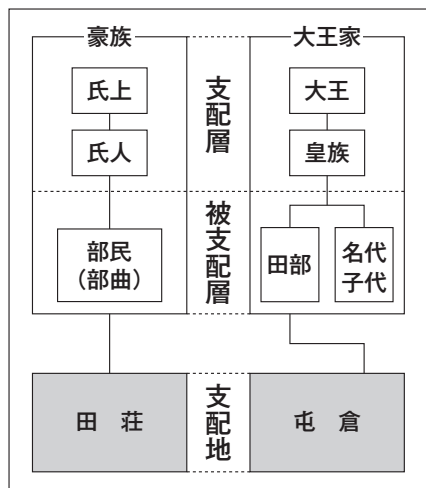


## (5) 私地私民的支配

豪族連合というヤマト政権の特徴は、土地支配の様子(私地私民的な支配)にもよく示されている。豪族の農業経営の拠点(私有地)のことを田荘、豪族の私有民を部曲かきべといい、大王家の直轄地は屯倉みやけ、その耕作者は田部と呼ばれていた。さらに大王家は、服属した地方豪族の支配する私有民の一部を名代・子代部という直轄民として組織し、大王家を維持するための労働に従事させた。

また、諸豪族は奴隸的な人々も所有し、彼らはヤツコ(奴婢)と呼ばれた。

資料18 ヤマト政権の支配構造



### Note

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....